傳神開手
北齋漫画十一編 完

尾張東壁堂藏板画譜畫手本目録

北齋漫画　狂画苑　北齋画譜
北溪漫画　文鳳麁画　同　中編
北雲漫画　蕙齋麁画　同　下編
珖琳漫画　神事行燈　富嶽　百景
金氏画譜　北齋女今川　同　二編
一筆画譜　初學繪手本　同　三編
英勇画譜　福善齋画譜　繪本　庭訓
浮世画譜　武勇魁圖繪　同　中編
英泉画譜　浮世画手本　同　下編

畫論に凝て筆法ところを得まて医案正しく匙の
はこびをしらざるの類古人の説を活動し疾状
全然して良医なる人我を活かし傍画人も亦然り
古法は縄墨我をうけにて益を画すくうするにしくはなし
画をもてんすなり画を上手ならしむるに多く人の説
独此翁のみそめぐらし法を広め手本を残し五十年来
画の妙風骨精致の画道を接へて山を雲をわける是

漫画 十二

知らぬ絵に似たる猿と出て真を写し妙得て生ながら写し実に一家
の画道を開きり仕る化は比の手より出たるもの年々に
其の世に行はるゝ画る戯既に十巻刊行なりしも猶休さん
能はず需め志す人に応じ続編を与へ遺漏を補ひ
拾ひて今まで十三巻来ぬ出る編を次で廿編まで合部となる
ことを得ば此書の発行世に勝れて尤興ある物なりけれ

柳亭種彦

乾 天
坤 地
艮 山
坎 水
画ハ起り
天あり
山之
地へ
水あり
周の文王（しうのぶんのう）

芦屋道満（あしやどうまん）
易術を競ふ（えきじゆつをきそふ）
安倍清明（あべのせいめい）

辻占（つぢうら）

ふけときや ゆふ毒始 神ふり此 えハ道ゆく人に 占正せよ

度會比太夫（わたらひたゆふ）よりこのことあり

哥占（うたうら）

末ハ葛乃津の ぐんひおりく 野良猫の 今ハ影とし あたらん世乃中

鶏犬（けいけん）の声（こゑ）に吉凶（きつきやう）を知（し）る

勝敗

二王のゆきあげ

負あまり編

北斎漫画十二編
て狗はよめ入
ぎおんの大とうしびる
天人のでんがくざせ
平の忠もり
立役

下部の
おく
びやう
玉手箱乃
まちがい

つきやせ
そさう

大裏(おほうち)相撲使(ことりつかひ)

角觝の編(すまひのへん)

横綱免許

谷風梶之助

北斎漫画十一編
しろうとすもう
すもう
二ぞんどり
はまどり
しこふむ
うまみ

三役
立合
中ウみ
すまう
よび
だし
奴

とらけん

拳角力

つゝまん

唐人拳

イヽンロウ
ハシウ
ホヲウ
ヘエイトン

キイニ
リウヽヽ又ウ
ヌウワア
アカアン

里田

山家

羅漢舞
そのはぎれらァかんハ
とやつてナ〱
これて〱
ころりしてナこま
あんならァかんぢやァ
さてその端ぎれらァかんハ
これて〱
ころりしてナこま
あんならァかんぢやァ

里畑（さとはた）

山の編（やまへん）

山畑（やまはた）

山田

水田

北斎漫画十二編

安志尾の裏山（あしおさん うらやま）
庚申山猿が浄土（かうしんさん さるが じやうど）

二王石

臺石

自然の石橋

裏見が飛泉

猪伐
凹を覗
同
高を覗
猟師
雉子笛
猟のへん鍋

網して鳥をとらふ

カラーイホウヘル

漢土猟師

切火縄

切火縄

口薬入

胴薬入

鳥口

玉袋

火縄

猛獸を伐し圖

火歩筒

海魔

韃國の獵人大鳥を打し形

似西洋銃

海魔去

弓締

韃将似雙兇（だつせうそうけうの）
短炮明兵歩（たんぱうをもつてみんぺいをとる）

雙穴之短炮（そうけつのたんづゝ）

火打裡面

火門

背面之形

火打背面

石挟

石

側面全圖

引金

火打側面

裡面之形

裡面之二

北斎漫画十編

刀八毘沙門天（とうはちびしやもんてん）

略画の編

相輪塔

三弋鳥栖（さんきいとりゐ）